

インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ: 報告数833件(前月比 0. 3、前年比 1. 3)と激減しています。定点あたりの報告が多いのは、八代18. 7、人吉16. 4、阿蘇、宇城15. 3でした。年齢的には6歳、7歳と9歳を中心として幅広く報告があります。

小児科定点

(全体傾向) 報告総数は、4, 464件(前月比 0. 8、前年比 1. 2)でした。インフルエンザが、4月の2, 551から833と激減しました。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症: 報告は6件でした。
2. 咽頭結膜熱: 報告数102件(前月比 1. 3、前年比 1. 8)と、例年並みの動向を示しており、今後増加に向かうことが予想されます。菊池の定点あたり8. 5が目立ちます。
3. A群溶連菌咽頭炎: 報告数365件(前月比 1. 3、前年比 1. 6)は、先月より、また、前年同月比よりも増加しています。ここ数年、上半期に報告が多い状況が続いています。昨年と同様であれば、6月後は減少に転じるものと思われませんが、当分注意が必要でしょう。4～5歳にピークがありますが、幅広い年齢層からの報告はいつもと同様です。人吉(定点あたり17. 0)、熊本(同10. 8)から二桁の報告ですが、御船・山鹿を除く他の地域で報告がありません。
4. 感染性胃腸炎: 報告数1, 921件(前月比 0. 9、前年比 1. 5)と前月に比べれば減少していますが、例年に比べると、まだ多いようです。次第に減少してくると考えられますが、報告の絶対数では多い疾患です。ほぼ全年齢からの報告があり、御船を除き、県下から二桁の報告です。
5. 水痘: 報告数354件(前月比 1. 2、前年比 0. 7)と、例年に比べれば少ない報告です。これから夏に向け減少すると考えられますが、予防接種等の情報提供が必要でしょう。山鹿(定点あたり 11. 5)、熊本(同 11. 4)からの報告が多いようですが、報告数で見れば、約半数(183/354)は熊本からの報告です。また阿蘇・御船からの報告がないなど、流行にも地域差があるようです。多くは1歳から3歳であり、予防接種対象年齢です。
6. 手足口病: 報告数21件(前月比 1. 6、前年比 0. 2)と、前月から増加したとはいえ、少ない報告です。
7. 伝染性紅斑: 報告数22件(前月比 0. 9、前年比 0. 3)と、昨年夏以来の低水準が続いています。ただ報告は少ないのですが、ほぼ県下からの報告があり、注意は必要でしょう。
8. 突発性発しん: 報告数240(前月比1. 5、前年比1. 4)と増加しています。例年夏に向け増加して行きますが、あまり局地的な流行、大流行の少ない疾患であり各定点数×4件が平均と考えます。
9. 百日咳: 報告はありませんでした。
10. ヘルパンギーナ: 報告数152件(前月比 2. 5、前年比 2. 0)と例年のパターンで増加しています。季節的に今後大きな流行になることが予想されます。地域では、人吉(定点あたり10. 0)が多く、

菊池(同7. 5)に多いようです。御船・阿蘇を除いて報告が出てきましたので、これから要
注意の疾患と考えます。年齢的には1歳をピークとしています。

11. 流行性耳下腺炎: 報告数222件(前月比 1. 3、前年比 0. 8)と一昨年末から月200件の高水準の発生
が続いています。4月に1年ぶりに100台になりましたが、今月は再び増加しています。
天草(定点あたり17. 5)、水俣(同14. 5)、宇城(同12. 7)に多いようです。4～5歳を中
心として見られます。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎: 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎: 報告数58件(前月比 1. 5、前年同月 1. 6)と増加していますが、その後の発症状況
から大きな流行にはならないと思われます。年齢別では20～59歳で69%と大多数を
占めていますが、特に30歳代に38%とピークが見られます。その他70歳以上の高齢
者の発症も継続しています。地域別では熊本55件、菊池1件、有明2件の報告です。

STD定点

1. 性器クラミジア感染症: 報告数 62件(前月比 3. 3、前年比 1. 7)でした。前月比、前年比とも著明に増加し
ています。男女別は、女性が45件と圧倒的に多く見られています。年齢別は、女性は1
5～29歳に37件と多く、男性では15～34歳に13件と多く見られています。地区別は、
熊本45件と圧倒的に多く、次いで、御船に8件、宇城5件、八代3件、山鹿1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症:
報告数 11件(前月比 0. 7、前年比 0. 6)でした。前月比、前年比とも減少していま
す。男女別は、全例が女性で、年齢別では、20～49歳に見られています。地区別は、
熊本が10件と圧倒的に多く、次いで八代1件でした。
3. 尖圭コンジローマ: 報告数は7件(前月比 1. 4、前年比 1. 4)でした。前月比、前年比とも増加していま
す。男女別は、女性に5件と多く見られています。年齢別は、女性では15～19歳に3
件、25～29歳に2件、男性では25～29歳、45～49歳に各1件みられています。地
区別は、八代4件、熊本2件、宇城に1件でした。
4. 淋菌感染症: 報告数は15件(前月比 1. 7、前年比 2. 5)でした。前月比、前年比とも増加していま
す。男女別は、男性に11件と圧倒的に多く見られています。年齢別は、男性は20～24
歳、30～34歳に各3件と多く、女性では15～29歳に見られています。地区別は、熊本
10件と多く、次いで宇城4件、御船1件でした。

基幹定点

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎: 報告数0件(前月より - 2件、前年同月と同じ)でした。
2. 無菌性髄膜炎: 報告数2件(前月比 0. 7、前年同月より +2件)でした。
3. マイコプラズマ肺炎: 報告数17件(前月比 1. 4、前年同月比 5. 7)でした。再び増加に転じ、前年よりま
だ多く見られます。
4. クラミジア肺炎: 報告数0件(前月と同じ、前年同月と同じ)でした。

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症:

報告数53件(前月比 0. 6、前年同月比 1. 1)でした。31件(58%)が70歳以上でした。1年ぶりに60件以下に減少しました。

2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症:

報告数1件(前月比 0. 1、前年同月比 0. 1)でした。6か月ぶりに3件以下となりました。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症: 報告数0件(前月より -1件、前年同月と同じ)でした。しかし今年の件数は4件で、前年の同時期0件より多く注意が必要。

4. 薬剤耐性アシネトバクター感染症:

報告数0件(前月と同じ、前年同月と同じ)でした。

届け出対象感染症

- 1類感染症: 報告はありませんでした。
2類感染症: 結核:30件
3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症:11件
4類感染症: 日本紅斑熱:3件
レジオネラ症:2件
5類感染症(全数把握): クロイツフェルト・ヤコブ病:1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症:1件
後天性免疫不全症候群:1件
梅毒:1件
破傷風:1件
バンコマイシン耐性腸球菌感染症:1件
風しん:2件